キリスト教に基づく女子教育で 社会に参画し、主体的に生きる女性を育てる。

金城学院中学校・高等学校校長　野々垣 愼治

2023年4月、野々垣 愼治先生が金城学院中学校・高等学校の校長に就任しました。
36年間、ずっと金城学院で教員生活を送り、2018年からは副校長として生徒や教員をサポートするなど、
金城学院の良さと魅力を知り尽くしている野々垣新校長に、
校長就任にあたっての抱負や今後の展望について話を聞きました。

毎日の礼拝とDignityで「神への畏敬の心」と「生きる力」を育む。

── 金城学院中学校・高等学校の新校長に就任された今の気持ちはいかがですか。

伝統ある金城学院中学校・高等学校の校長としての責務を感じて、一日一日、とまどいながら、また、さらなる学校の発展のためにどのようなことができるのかを考えています。

── 金城学院の役割とは何ですか。

創立者のアニー・ランドルフ宣教師がこの学院を建てられた建学の精神を忘れず、教職員と共にキリスト教に基づいて、生徒がリーダーとして社会に参画できる力をつけるために、最高の教育を施すことだと思っています。本校は生徒３人で始まった学校ですが、明治の時代から英語教育を含む高度な教育を施してきました。

本校が目指す女子教育というのは、時代や社会の流れの中で変わってきます。「良妻賢母を育てる」という時代もありましたし、今は、社会に出て、多様な分野で活躍できる女性を育てることに力を入れる時代になっています。時代や社会の変化に合わせて教育は変わっていきますが、学院に息づく建学の精神や教育の理念は、どんなに時代が移ろうとも、決して変わってはいけません。名古屋に女子教育の種をまいたランドルフ先生の思いはどうだったのだろう･･･。学校がどうあるべきかを問う時は、いつも創立者の想いに立ち帰ります。

── 金城学院ならではの教育とは何ですか。

キリスト教に基づく教育と、Dignity（ディグニティ）の授業を中心とした探究活動です。本校では中高の６年間、毎朝礼拝を行います。毎日ふれる聖書のみ言葉は、卒業した後も生徒たちの心に染みこんでおり、心の支えとなっています。また、人間以外の存在（神）をどこかで感じていることで、自分中心にならず、周りの人のこと

を思いやれる心、そして、さまざまな苦難にあっても心の支えにより乗り越えていける精神力が自ずと培われていると思います。
一方、「科学的思考」「表現」「協働」という教育方針は2015年の夏に行った教員ワークショップから生まれた本校独自のもので、本校の生徒の良いところをさらに伸ばし、身に付けて欲しい力が何かを教員同士が話し合い、知恵を絞って創り出したものです。
６年間の学びを通して、「物事を理論的に考え、正しく判断する力」、「自分の考えを正しく伝える力」、「他者との対話を通して新しい発見ができる力」の３つの力が身に付くようにプログラムされています。特に中学1年生では「言語技術」を徹底的に鍛え、高校では探究力育成のためのトレーニングを学年ごとで段階的に実施する中で、SDGsについても学んでいきます。少子高齢化、環境問題、エネルギー問題、差別、貧困など、現代社会にはさまざまな課題が山積しています。この３つの力を養うことで、ただ単に社会を生き抜いていくだけではなく、社会の課題と関わり、一つひとつ解決へ導くことのできるリーダーを育てたいと考えています。

── 生徒たちと関わる中で、野々垣先生が大切にしていることは何ですか。

校長に就任したことで授業がなくなり、生徒たちと距離ができてしまいがちなので、こちらから挨拶をして多くの生徒と笑顔で接し、できるだけ会話する機会を作り、生徒との距離を感じないようにしたいと思っています。

生徒一人ひとりの夢を叶える。そのためのサポートは惜しまない。

── 中学校では2021年度から、高等学校では2022年度から新学習指導要領がスタートし、大学入試制度も大きく変わりました。

将来は資格を取って医療分野で働きたい、グローバル社会で活躍したいなど、生徒たちはさまざまな夢を持って金城学院中学校に入学してきます。こうした生徒一人ひとりの夢が叶うように力をつけさせることが、私たちの使命です。Dignityで実践している学習プログラムは、新学習指導要領がめざすものと多くが一致しており、高大接続型入試や一般推薦などにも十分に対応する教育です。また、７限授業を週２日行い、基礎学力、応用力をつけさせることで、一般受験でも生徒が希望する大学に進学させることを目指しています。

── コロナが感染症法の５類に移行し、学校現場にも少しずつ日常が戻ってきました。振り返っていかがですか。

休校措置がとられた時は、タブレットを導入し、課題のやりとりを行うなど、生徒たちの学びを止めずに済んだのはよかったのですが、生徒たちがいない学校、授業後の部活動が行えない学校の寂しい時を経験し、生徒たちの笑い声や話し声があっての学校だと感じました。修学旅行や体育祭などの行事ができなかったことも本当に残念です。行事を通して友人や先生との思い出を作り、体験を通して学び、友人と意見を交わすことで成長していくことができますから。また、メディアでも取り上げられていましたが、生徒たちにとってだけでなく、社会の中で学校がどれだけ大きな役割を果たしているかを改めて気づくことができました。

── 校長としてこれから取り組んでいきたいことは何ですか。

本校では、ここ数年間で、Dignityをはじめ、中高一貫カリキュラム、７限授業、思考力入試、英語利用入試の導入など、さまざまな改革を進めてきました。その進化と発展を促すためにも、今は追跡調査でその成果を確認し、それらの改善を行う時期であると思っています。
生徒たちには、伝統ある金城学院の一員としての誇りを大切に、社会や家庭生活の中で強く、しなやかに生きる女性、主体的に生きる女性に育っていってほしいと願っています。私たち教職員も、全力で応援します。

金城学院中学校・高等学校　校長
野々垣 愼治　NONOGAKI Shinji

1987年、東京理科大学理工学研究科 物理学専攻修士課程修了後、金城学院高等学校へ理科の非常勤講師として就任。1988年に高等学校専任教諭となる。1999年、金城学院中学校へ配置替。2013年に中学校教務課長、2018年に中学校副校長、学校法人金城学院評議員に就任。2023年4月、金城学院中学校・高等学校校長、金城学院理事に就任。